



2008年アーノルド・フルクテンバウム博士セミナー

# 神の人類救済プログラム

ーディスペンセーションナリズムの立場から学ぶー

講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

By Dr. Arnold G. Fruchtenbaum

通訳：中川 健一

2008年4月

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

(無断複製を禁じます)

## 目次

イントロダクション . . . . . p. 3

I. ディスペンセーションとは何か . . . . . p. 3

- A. 名称の語源
- B. 聖書での使用法
- C. 定義 (Ryrie による)
- D. ディスペンセーションの特徴
- E. ディスペンセーションナリストの特徴

II. ディスペンセーションの種類 . . . . . p. 7

はじめに

- A. 無垢の時代 (創 1 : 28 ~ 3 : 8)
- B. 良心の時代 (創 3 : 9 ~ 8 : 14)
- C. 人間による統治の時代 (創 8 : 15 ~ 11 : 32)
- D. 約束の時代 (創 12 : 1 ~ 出 18 : 27)
- E. 律法の時代 (出 19 : 1 ~ 使徒 1 : 26)
- F. 恵みの時代 (使徒 2 : 1 ~ 黙示 19 : 21)
- G. 御国の時代 (黙示 20 : 1 ~ 10)

III. 契約神学 (置換神学の主流) . . . . . p. 13

はじめに

- A. 定義 : 2つ、時には3つの契約を基礎とした神学体系
- B. Covenant of Works (行いの契約)
- C. Covenant of Redemption (贖いの契約)
- D. Covenant of Grace (恵みの契約)
- E. 問題点
- F. 結果

IV. 解釈学	p. 16
A. ディスペンセーションナリズムの立場	
B. ディスペンセーションナリズム以外の神学	
C. ディスペンセーションナリズムに対する批判	
D. 新約聖書の旧約聖書引用法	
V. 救済論	p. 19
A. 契約神学	
B. ディスペンセーションナリズム	
VI. 教会論	p. 20
A. 契約神学	
B. ディスペンセーションナリズム	
VII. 終末論	p. 23
A. 解釈学	
B. 旧約聖書の預言	
C. イスラエルと教会	
D. 大患難前の携挙	
E. メシア的王国	

## イントロダクション

### I. ディスペンセーションとは何か

#### A. 名称の語源

##### 1. 英語、ディスペンセーション (dispensing, administration, managing)

ラテン語：ディスペンサシオ：ブルガタ訳聖書、ヒエロニムスはこの言葉を使う。

##### 2. ギリシア語：オイコノミア (英語のエキュメニカルはここから派生)

(1) (manage, regulate, administer, plan)

(2) オイコス (家) + ノモス (法)

(3) (inhabited world) : 人の住んでいる家の家事を管理すること。

(4) オイコノミアには、時間の概念は含まれていない。

(5) アイオンには「時間の概念」がある。「時代」を意味する。

##### 3. 結論

意味は「stewardship (管理者の職務)」。

時間の要素が入ると「age (時代)」の意味となる。

#### B. 聖書での使用法

##### 1. 新約聖書で 20 回

a. 1 回は動詞：ルカ 16 : 2 「管理」

b. 19 回は名詞

(1) オイコノモスは 10 回 「管理者」

ルカ 12 : 42、16 : 1, 3, 8、ローマ 16 : 23、I コリント 4 : 1, 2、

ガラテヤ 4 : 2、テトス 1 : 7、I ペテロ 4 : 10

- (2) オイコノミアは 9 回 「ディスペンセーション、管理者の職務」  
ルカ 16 : 2, 3, 4、 I コリント 9 : 17、 エペソ 1 : 10、 3 : 2, 9  
コロサイ 1 : 25、 I テモテ 1 : 4

## 2. 内容

### a. たとえ話の中での使用法 (ルカの福音書) : 4 つの特徴

- (1) 当事者が 2 人 : 片方が権威を授け、他方が義務を果たす。
- (2) 明白な義務がある。
- (3) 主人に説明責任がある。
- (4) 不忠実が発見されたなら、いつでも変更可能。

### b. 他の使用法 (主にパウロ。ペテロは 1 回だけ) : 6 つの特徴

- (1) 神に対して人間は義務を負う (I コリント 4 : 1、2、テトス 1 : 7)。
- (2) 管理者としての義務を与えられた者には、忠実であることが要求される。
- (3) この義務は、神の定めの時終了する。

神の目的が達成され、別の目的が紹介されたから (ガラテヤ 4 : 4 ~ 7)。

- (4) 「神の奥義」とディスペンセーションは関係している。

コリント 4 : 1、エペソ 3 : 2、3、コロサイ 1 : 25、26

- (5) ディスペンセーションと「age (時代)」は関連性があるが、同じではない。

エペソ 3 : 9、コロサイ 1 : 26

- (6) パウロ書簡では、少なくとも 3 種類のディスペンセーションに言及する。

エペソ 1 : 10 (御国のディスペンセーション)

エペソ 3 : 2 (神の恵みのディスペンセーション : 今の時代)

コロサイ 1 : 25、26 (律法のディスペンセーション : 恵みの時代の前)

## C. 定義 (Ryrie による)

「ディスペンセーションとは、神の計画の進展において、明確に区分される経緯である」

(A dispensation is a distinguishable economy in the outworking of God's purposes.)

1. すべてのディスペンセーションには、似たような要素がある (殺人の禁止など)。
2. すべてのディスペンセーションは、区別可能である。

3. 神の計画の進展：神の視点から見たディスペンセーションの移行  
これが、漸進的啓示である（創世記から黙示録まで約 1500 年かかった）。
4. 新しいディスペンセーションは3つのことが起こると始まる。
  - a. その時まで有効に機能している法令、規則、命令のあるものは継続する。
  - b. その時まで有効に機能している法令、規則、命令のあるものは廃棄される。
  - c. それまでなかった新しい規則が加えられる。
5. 3つの視点
  - a. 神の視点からは、「economy（経綸）」である。
  - b. 人の視点からは「責任、義務」である。
  - c. 漸進的啓示から見れば「stage（段階）」である。
6. 長い定義：ディスペンセーションナリズムは、世界を神が管理する家と見る。  
神はその家の家事をご自身の計画に従って、漸進的啓示を与えながら、個々の段階に応じて管理される。これらの段階が、ディスペンセーションである。正しくディスペンセーションを理解することが、啓示を正しく解釈する鍵である。

#### D. ディスペンセーションの特徴

1. 主要な特徴
  - a. 神が人間を統治する際の、神と人との関係に変化がある。
  - b. 人間の責任に変化がある。
  - c. その変化をもたらす神からの啓示がある。漸進的啓示。  
例：アダムからノアは菜食、ノア以降肉食が許可される。
2. 二義的な特徴（この要素がなくても、ディスペンセーションは存在する）
  - a. テストがある。そのディスペンセーションにおける責任に従順かどうか。  
これは、救いの方法がいくつもあるということではない。  
救いの方法は、常に一つ。恵みにより信仰による。

b. 失敗

自分の責任を果たさない。

救いに関して神を信じない。

ほとんどの人が、失敗する。

罪がある段階に来ると、そのディスペンセーションは終わる。

c. 裁き

複数の裁きがある。

最終的な裁きによって次のディスペンセーションへ。

3. 管理者

a. すべてのディスペンセーションに管理者がいる。

b. 各ディスペンセーションの最初にひとりの人物が立つ。

c. 管理者が次のディスペンセーションまで生き続けることはない。

(例外は、最初と最後のディスペンセーション)

d. 管理者だけでなく、その下にいるすべての人に従順の義務がある。

E. ディスペンセーションナリストの特徴

1. なんでないか。

a. ディスペンセーションの存在を認めただけではだめ。

置換神学者でも、いくつかのディスペンセーションを認めている。

b. ディスペンセーションの数が問題なのではない。

7個以下でも、ディスペンセーションナリストであり得る。

しかし、最低3つは認めなければならない。十字架の前、後、王国。

c. 千年期前再臨説であっても、必ずしもディスペンセーションナリストとは言えない。

しかし、すべてのディスペンセーションナリストは、千年期前である。

2. なんであるか。

a. 聖書本文の比喩的、靈的解釈ではなく、「一貫した」字義通りの解釈。

他の神学的立場は、イスラエルを教会と解釈する。

b. イスラエルと教会とを区別する（上の a から出てくる結論）。

c. 神の最終的な目的：神の栄光

置換神学は、救いを中心テーマとする。しかし、これは「神の栄光」を示す計画の一部である。神の計画の中には天使に関する計画もある。

### 3. 結論

a. イスラエルと教会の区別。神の計画のゴールは、神の栄光である。

b. 基本原則：漸進的啓示

c. ある意味では、クリスチャンはすべてディスペンセーションナリストと言える。  
いけにえを捧げていないのは、ディスペンセーションナリストであるからだ。

d. 全的ディスペンセーションナリストか、部分的ディスペンセーションナリストか。

## II. ディスペンセーションの種類

### はじめに

- (1) 中心人物
- (2) 名称
- (3) そのディスペンセーションに生きる人の責任
- (4) テスト
- (5) 人間の側の失敗
- (6) 神の裁き
- (7) 恵みの要素

#### A. Innocency or Freedom 無垢の時代 (創 1 : 28~ 3 : 8)

1. 中心人物： アダム

2. 名称： 無垢の時代。罪のない状態で創造された。罪の奴隷ではなかった。  
天使の世界では、すでに罪があった。

3. 責任： エデン契約への従順



4. テスト： 善悪の知識の木から取って食べてはならない。神への従順が試された。  
唯一の禁止命令。
5. 失敗： 木から取って食べた。
6. 神の裁き： エデンの園からの追放  
アダムの呪い（土地の呪い）
7. 恵みの要素： 「女の子孫」である救い主の約束  
罪の問題の解決

#### B. Conscience or Self-determination 良心の時代（創3：9～8：14）

1. 中心人物： アダム
2. 名称： 良心の時代。神が人類を統治する原則は、良心（ローマ2：15）。  
政府という組織がなくても、自分で統治できる時代。
3. 責任： アダム契約  
良心の声に従う。  
もし失敗したなら、血の犠牲を捧げる  
創3：21の皮の衣により、血の原則は理解されていた。  
アベルの捧げ物（創4：4）は血の犠牲。
4. テスト： 人は良心に従うか。失敗したなら、血の犠牲を捧げるか。
5. 失敗： カインがアベルを殺した（創4：8）。  
創6：5 悪の拡大、良心の麻痺。
6. 裁き： ノアの洪水

7. 恵みの要素： 人々は、神の思いを知っていた。  
血の犠牲の意味を知っていた。  
エノクは救われ、死を経ないで天国に。  
ノアの家族の救い。

### C. Civil Government 人間による統治の時代 (創 8 : 15~11 : 32)

1. 中心人物： ノア
2. 名称： 人間による統治の時代。ノア契約の条項の一つから、この名が付いた。  
「人の血を流す者は、人によって、血を流される」(創 9 : 6)  
死刑制度は、人間の政府があることを前提としている。  
政府の存在目的は、法秩序の維持である。
3. 責任： ノア契約への忠実さ
4. テスト： a. 政府は公正を行う。  
b. 人類は地上に広がる。これは神の御心であった。
5. 失敗： 人類は一所にとどまり、統一政府を志向した。バベルの塔の事件。
6. 裁き： 言葉の混乱
7. 恵みの要素： 真の信仰者の存在

### D. Promise or Patriarchal Rule 約束の時代 (創 12 : 1~出 18 : 27)

1. 中心人物： アブラハム
2. 名称： **Dispensation of Patriarchal Rule** : 人間の政府に代わって族長たちが支配。  
**Dispensation of Promise** : アブラハム契約は「約束の契約」。  
アブラハムの生涯を神学化すれば、「約束」がキーワードとなる。  
ローマ 4 : 1~20、ガラテヤ 3 : 15~19、ヘブル 6 : 13~15、11 : 9

3. 責任： アブラハム契約

4. テスト： カナン人からの分離

5. 失敗： a. ビジネスをカナン人と共同でする。

b. カナン人との雑婚

アブラハムの息子イサクは、同族から妻を迎えた。

エサウはカナン人と結婚したが、ヤコブはそうではなかった。

ヤコブの 12 人の息子たちは、カナン人と結婚。

創 38 章：ユダ（メシアの家系）の墮落。

6. 裁き： エジプトでの奴隷

a. 選びの民をカナン人から分離。

b. エジプトでの奴隷状態により、イスラエルは雑婚から守られた。

7. 恵みの要素： 神は民族的にも宗教的にもイスラエルを守られた。

#### E. Mosaic Law 律法の時代（出 19：1～使徒 1：26）

1. 中心人物： モーセ

2. 名称： モーセの律法から来ている（613 の律法）。

3. 責任： a. モーセ契約に従う。

b. 預言者に従う。

4. テスト： a. すべての律法を行う（ヤコブ 2：10）。

b. メシアが登場したなら信じる。モーセのような預言者（申 18：15～19）

5. 失敗： a. 律法を守るのに失敗した（ローマ 10：1～3）。

b. 預言者に従わなかった（II 歴代 36：14～16）。

c. メシアを受け入れなかった。

6. 裁き： 複数あり。最後がクライマックス。
- a. アッシリヤ捕囚
  - b. バビロン捕囚
  - c. 離散（紀元 70 年）。これがクライマックスである。

7. 恵みの要素：

- a. 罪人を回復するための祭儀、贖罪の日には全国民の贖いがなされた。
- b. メシアの来臨

**F. Grace 恵みの時代（使徒 2：1～黙示 19：21）**

1. 中心人物： パウロ

2. 名称： 恵みの時代。ヨハネ 1：17。

律法はモーセを通して、恵みとまことはイエス・キリストを通して。

- a. モーセ以前にも、少ないが律法はあった。モーセとともに 613 の律法が出た。
- b. キリスト以前にも恵みはあったが、それが広がった。

3. 責任： 神からの「義の賜物」を受け取る責任（ローマ 5：15～18）。

4. テスト： メシアを通して義の賜物を受け取る。

5. 失敗： 以前のディスペンセーションと同じ。

- a. 大半の人がこれを拒否する。
- b. 教会でさえも、背教する。

6. 裁き： 大患難時代

7. 恵み：

- a. 異邦人は招かれている。
- b. イスラエルの残れる者も救われている。
- c. 大患難時代の前に携挙がある。信者は取り除かれる。

- d. 大患難時代の間にも、数多くの異邦人が救われる。
- e. ユダヤ人は 144,000 人も含めて救われる。
- f. 大患難時代の最後には、ユダヤ人はみな救われる。

#### G. Kingdom or Millennium 御国の時代（黙示 20：1～10）

- 1. 中心人物： メシア
  
- 2. 名称： 御国：メシアの王としての統治。エルサレムから直接。  
千年王国：統治の期間。
  
- 3. 責任： 御国の律法への従順。
  
- 4. テスト： 御国で誕生した人は、メシアを主として王として受け入れる。
  
- 5. 失敗： 千年王国の最後に、サタンの反逆に参加する人が多く出る。  
理想的な環境（政府、自然環境、健康、食物）でも人間の罪の性質はある。
  
- 6. 裁き： 最後の反抗、イスラエルを攻撃する軍隊。天から神の火が下る。
  
- 7. 恵み
  - a. イスラエルに対する神の契約の約束はすべて成就。
  - b. すべての預言は成就する。
  - c. 物質的な繁栄。
  - d. この時代に信じる者は、どこかの時点で、永遠の体を与えられる。  
不信者の場合でも、100 歳まで生きるのは普通（イザヤ 65：20）。

### Ⅲ. 契約神学（置換神学の主流）

はじめに

- (1) 長老派のほとんど契約神学
- (2) 改革派も契約神学

#### A. 定義：2つ、時には3つの契約を基礎とした神学体系

（ディスペンセーションリズムは8つの契約があると主張）

#### B. Covenant of Works （行いの契約）

1. 神とアダムの間の契約
2. 服従を全うすれば命が与えられる。
3. 不服従は死をもたらす。
4. アダムの罪とともに、この契約は破棄された。
5. 契約神学では、この契約を示す聖書箇所を示せない。

参考文献：新キリスト教辞典

「行いの契約」は、創世記の当該箇所から積義的に引き出されるものではない。

アダムが果すことのできなかつた契約を果して下さった「第2のアダム」であるキリスト(ローマ5:12-19,

Iコリント15:22, 45)のみわざから、最初のアダムが置かれた契約状態が推定されるのである。

#### C. Covenant of Redemption （贖いの契約）

1. 父なる神と子なる神の契約
2. 父は子に、選民の頭になることを約束し、子は選民のために死ぬことを了承する。

3. 子は選民の頭であり、自発的に死ぬというのはその通りであるが、それが父と子の間の契約であるという聖句はどこにもない（だから信じない契約神学者も多い）。

#### D. Covenant of Grace （恵みの契約）

1. 父なる神が**選びの民**と結ぶ契約
2. 神の責任は御子を通して救いを**選びの民**に与えること。そのために御子が死ぬ。
3. **選びの民**は、その救いを受け取る。
4. 契約神学では恵みの契約だけが重要。この契約の中心的要素は「**選びの民の救い**」。
5. 契約神学者は、種々の契約が聖書に記されていることを認めるが、それらはすべて「**恵みの契約**」の諸側面であって、実際は複数の契約があるのではなく、ひとつの契約しかないという。
6. どの時代にあっても、人は「イエスは自分の罪のために死んだ」と信じて救われる。アブラハムもモーセも、私たちと同じ知識を持っていた。信仰の内容はどの時代にあっても同じで、一つの神の民（**選びの民**）の存在しかない。それが「**教会**」である。
7. 教会は使徒2章からではなく、アダムから（あるいはアブラハムから）存在する。旧約で「**イスラエル**」とは、イスラエル民族ではなく**教会**のことである。
8. この体系では、**教会**とは別にイスラエル民族がいることを認められない。そこで「**霊的イスラエル**」（**教会**）という呼び方になる。
9. この体系でも、4つの時代区分（**administration**）は認める。
  - a. アダムからアブラハム（**教会は個人**）
  - b. アブラハムからモーセ（**教会は族長たち**）
  - c. モーセからキリスト（**教会は国家的。イスラエルは国家的教会である**）

d. 福音のディスペンセーション

- (1) 教会は多数の異邦人を迎えるためにイスラエルから分離された。
- (2) ほとんどの契約神学者は、将来、御国が成就することは認めない。

## E. 問題点

1. 契約の一般的な理解を基に、聖書のすべての契約を一つの契約にはめ込もうとする。
2. 聖句の裏づけがない。聖句を引用した場合でも的外れになっている（創3：15）。
3. 聖書は、ディスペンセーションナリストが主張する8つの契約に言及しているが、契約神学の3つの契約には同様の言及がない。

## F. 結果

### 1. 解釈学（解釈の科学）

- a. 契約神学者は預言を霊的に解釈する。イスラエルの回復、物質的祝福は無視。
- b. 彼らの主張では、解釈学の原則は新約聖書にのみ見出される。  
新約聖書を用いて旧約聖書を解釈するのは悪いことではない。  
しかし、新約聖書を旧約聖書に読み込むのは間違っている。
- c. 旧約聖書は旧約聖書の文脈で解釈する必要がある。
- d. 彼らは、霊的解釈、比喩的解釈を行う。  
教会がイスラエルになり、イスラエルに将来はないとされる。  
イスラエル人は個人的に救いを体験するが、民族的な役割は消滅したとされる。

### 2. 教会論

- a. 神の民は、「選びの民」のみで、ひとつ。
- b. 教会は使徒2章からではなく、アダム（あるいはアブラハム）から存在する。
- c. 契約神学では、教会とイスラエルの区別はない。

### 3. 救済論

- a. 信仰の内容は、常に同じであるとされる。



- b. 旧約聖書の聖徒たちは、旧約聖書に書かれている以上の知識を持っていた。
- c. 旧約の聖徒たちはメシアの死を待ち望み、新約の聖徒たちはメシアの死を振り返り救われるとされる。

#### 4. 終末論

- a. 預言の比喩的解釈を行う。解釈者が最終的な権威となるのが問題である。  
ディスペンセーションナリストはすべて、千年期前再臨、患難期前携挙を支持する。  
しかし、契約神学者は、どの程度比喩的解釈を施すかによって意見が異なる。
- b. 再臨と千年王国に関して
  - (1) 千年期後再臨説：教会が長期にわたって世界を支配した後再臨がある。
  - (2) 千年期前再臨説：ディスペンセーションナリストと同じ考え方。  
契約神学者の一部はこの立場を取る。しかし文字通り千年間とは考えない。  
ディスペンセーションナリストは、この王国はユダヤ人の王国と考えるが、  
契約神学者はそうは考えない。
  - (3) 無千年期説：契約神学者の大半がこの立場である。  
初臨と再臨の間の今が千年王国の時代である。  
教会が王国であるとする者と、天国に王国があるとする者がいる。
- c. 携挙に関して（これは、千年期前再臨説のみに関するもの）
  - (1) 大半が、患難期後。
  - (2) 少数が、患難期中。
  - (3) きわめて少数が、患難期前。

## IV. 解釈学

### A. ディスペンセーションナリズムの立場

黄金律：特別な理由がない限り、聖書は通常の、文字通りの意味に解釈すべきである。

- 1. 「文法的・歴史的解釈」と呼んでもいい。

文法に適い、当時の人々が理解したように解釈する。

2. 通常の、文字通りの意味に解釈する。
3. 単純な解釈。
4. 将来の預言を文字通り解釈する理由は、すでに成就した預言は文字通り成就したから。
5. 契約神学者の間にある意見の違いは、どの程度比喩的に解釈するかの違いである。  
ディスペンセーションナリズムは、字義通りの解釈を一貫して行う。

## B. ディスペンセーションナリズム以外の神学

1. 解釈に一貫性がない。
2. 救済論に関しては字義通りの解釈、終末論に関しては比喩的解釈。
3. イザヤ 65 : 17~25 メシア的王国の預言
  - a. 正解：メシア的王国では、動物世界は平和になり、肉食動物も草食になる。
  - b. 王国の成就を信じない契約神学者の一人は、これをパウロの回心と言う。
  - c. 「聖なる山」とは教会のことだとされる。
  - d. 「エルサレム」(19節)とは新約の教会であるとされる。

## C. ディスペンセーションナリズムに対する批判

1. 聖書の統一性が破壊されるという批判
  - a. 8つの契約、7つのディスペンセーションの存在は、聖書の統一性を破壊する。
  - b. それに対して、契約神学は、聖書の統一性を保持している。
  - c. しかし、これは誤解である。
    - (1) すべてのディスペンセーションは、「神の栄光」を実現するためにある。
    - (2) 「人類の救い」は「神の栄光」の一部である。
    - (3) 天使のための計画は「救い」がゴールではない。墮天使は救われない。
  - d. 批判への反論
    - (1) 存在しない統一性を、無理に聖書に押し付けてはならない。

- (2) 契約は複数あり、ディスペンセーションも複数ある。
- (3) 聖書の統一性は「神の栄光」というテーマを中心に展開されるものである。

## 2. 山上の垂訓に関する批判

- a. ディスペンセーションナリストは、これを「王国の律法」としているという批判。
- b. しかし、この天に関するディスペンセーションナリストの見解は、分かれる。
  - (1) 王国の律法と考える者
  - (2) 今日的な律法と考える者
  - (3) モーセの律法の解釈だと考える者
- c. 以上のどの立場を取っても、ディスペンセーションナリズムの範囲内にある。
- d. 今日的な適用があることは、すべてのディスペンセーションナリストが同意。
- e. 一つの立場の間違いを証明しても、ディスペンセーションナリズム全体の間違いを証明したことにはならない。

## D. 新約聖書の旧約聖書引用法

- 1. 新約聖書は旧約聖書を文字通りには引用していない。
- 2. これは、ユダヤ的思考に無知であるための誤解である。ラビは4つの引用法を用いる。
  - a. 文字通りの預言＋文字通りの成就
    - (1) マタイ 2 : 5、6、ミカ 5 : 2
    - (2) メシアはベツレヘムで誕生する。これはミカの預言の文字通りの成就。
  - b. 文字通りの出来事＋タイプ（型）
    - (1) マタイ 2 : 15、ホセア 11 : 1
    - (2) ホセア 11 : 1 は預言ではなく、出エジプトへの言及。
    - (3) イスラエルは国家として「神の子」（出 4 : 22、23）。
    - (4) ホセアはそれを、神が神の子をエジプトから導き出しと表現する。
    - (5) 文字通りに起こった出エジプトの出来事が、タイプ（型）となった。
    - (6) ヘブル人への手紙は、この引用の仕方をする。
  - c. 文字通りの出来事＋適用
    - (1) マタイ 2 : 17、18、エレミヤ 31 : 15

- (2) エレミヤ 31 : 15 は、預言でも過去の出来事でもなく、進行形の出来事。  
エルサレムの北にラマという町がある。そこにユダヤ人は集められた。  
ラマの近くにラケルの墓がある。ユダヤ人の母は息子のために泣く。  
それをラケル（ユダヤ人の母の象徴）が嘆いていると表現する。
- (3) ユダヤ人の母が、見ることのない息子のために泣く。これだけが同じ。
- (4) 使徒 2 : 16 以降、ヨエル 2 : 28～32 引用  
ヨエルは、聖霊の傾注がイスラエルの国家的救いをもたらすと預言。  
使徒 2 章では、聖霊の傾注があった。これだけが同じ。

#### d. 要約

- (1) マタイ 2 : 23、どこにもそのような預言はない。
- (2) 旧約聖書の預言者が預言したことを、要約している。
- (3) ユダの人はガリラヤ人を軽蔑し、ガリラヤ人はナザレ人を軽蔑した。
- (4) メシアは軽蔑されることを要約している。
- (5) この分類を見分ける方法は、預言者が複数形になっている点。

## V. 救済論

### A. 契約神学

唯一の信仰の内容：御子の死を信じることによって救われる。そのためには、旧約の聖徒たちは聖書に記されている以上の知識を持っていたという前提を置かねばならない。この立場の者たちは、新約を旧約に読み込んでいる。

### B. ディスペンセーションナリズム

契約神学者は、ディスペンセーションナリズムは複数の救いの方法を教えていると批判しているが、そうではない。

#### 1. 救いの基礎：メシアの死

神はこの土台に基づいて、すべての時代の聖徒たちを救っている。

#### 2. 救いの方法：恵みにより、信仰を通して。

3. 信仰の対象：すべてのディスペンセーションにおいて、対象は神である。
4. 信仰の内容：これが変化する。救われるためには何を信じなければならないか。
  - a. これはディスペンセーションごとに変化する。これが漸進的啓示の意味。
  - b. 今の時代における信仰の内容は、メシアの死と復活である。
  - c. これは、旧約の聖徒たちが知らなかった内容である。
  - d. 創 15：6 の例：アブラハムの義認は、神を信じた（信仰の対象）ことによる。  
彼は何を信じたのか。神が彼に約束した内容を信じた。

## VI. 教会論

### A. 契約神学

1. 教会はアダム以来常に存在してきた。
2. 例外的にアブラハムから教会が始まったとする契約神学者もいる。
  - a. アブラハム契約と「恵みの契約」を結びつけるため。
  - b. ユダヤ人の歴史はアブラハムとともに始まる。  
教会とイスラエルを同じにしたいという動機がある。  
旧約のイスラエルとは教会である。  
神がイスラエルに関して良い預言を語ると、それは教会である。  
神がイスラエルに関して悪い預言を語ると、それは肉のイスラエルである。

### B. ディスペンセーションナリズム

1. 教会の「奥義 (Mystery)」としての性質  
教会は使徒 2 章から始まった。
  - a. 「奥義」の意味
    - (1) エペソ 3：3 以降
    - (2) 旧約では隠されていたが、新約では啓示された真理。
    - (3) コロサイ 1：25～27

b. 「奥義」としての教会（奥義であるなら、旧約時代には啓示されていなかった）

(1) エペソ 3 : 1 ~ 12 ユダヤ人と異邦人が一つの「からだ」を形成する。

(2) メシアが信者に内住している。

コロサイ 1 : 25 ~ 27、 2 : 10 ~ 19、 3 : 4、 11

(3) 教会はメシアの花嫁である。旧約ではイスラエルは主（ヤハウェ）の妻。

エペソ 5 : 22 ~ 33

(4) 教会の携挙

I コリント 15 : 50 ~ 58

再臨そのものは旧約に預言されていたので「奥義」ではない。

2. 教会は独自の時を持つ。

a. 「教会」という言葉が初めて用いられたのは、マタイ 16 : 18。

この時点では、教会は将来のこと。

b. 教会が存在するための3つの前提条件

(1) メシアの死 マタイ 16 : 21 でイエスはご自身の死を預言。

(2) メシアの復活 エペソ 1 : 20 ~ 23

(3) メシアの召天 聖霊の賜物が教会を機能させる。エペソ 4 : 7 ~ 12

c. 教会は「新しいひとりの人」

(1) エペソ 2 : 11 ~ 14 では、イスラエルと異邦人が区別されている。

(2) エペソ 2 : 15 では、第3の存在（イスラエル人の信者と異邦人の信者）。

(3) 「新しいひとりの人（教会）」の土台は、使徒と預言者。

d. 聖霊の働きは使徒2章以降に起こった：信徒を教会にバプテスマする働き。

(1) コロサイ 1 : 18 教会はメシアのからだである。

(2) I コリント 12 : 13 ひとつの聖霊によってバプテスマされた。

(3) 使徒 1 : 5 聖霊のバプテスマを受けるからです（未来形）。

(4) この預言はいつ成就したか。使徒2章である。

しかし、使徒2章には「聖霊に満たされた」とある。

使徒 11 : 15 ~ 16 で、ペテロは異邦人に聖霊が下ったことを「私たちと同じように」、また「聖霊によってバプテスマを授けられる」と表現している。

つまり、教会は使徒2章で誕生したのである。

### 3. 教会はイスラエルとは異なる。

a. 新約ではイスラエルという言葉は 73 回出てくる。1 度も教会を指さない。

使徒の働きでは、イスラエルと教会が並存して出てくる。

b. 新約ではイスラエルという言葉は 2 つの意味で使われる。

(1) 民族としてのイスラエル。アブラハム、イサク、ヤコブの子孫。

(2) 霊的イスラエル。これは教会ではなく、信仰のあるイスラエル。

「イスラエルの残れる者」。今日のメシアニック・ジューもこれである。

(3) 今日でも区別は続いている。

\*イスラエルと異邦人の区別：エペソ 2：11～16

\*イスラエルと教会の区別：I コリント 10：32

\*ユダヤ人信者と異邦人信者の区別：ローマ 11：16～24

### 4. 注目すべき論点

a. 神のイスラエル

ガラテヤ 6：16、ローマ 11 の栽培種の枝のこと。

(1) 2 つのグループ：異邦人クリスチャンとユダヤ人クリスチャン

(2) 接続詞の「kai」

NIV では契約神学者によって「even」と訳されている。

ASV、NASV、KJV、NKJV ではすべて「and」と訳されている。

b. アブラハムの子孫

(1) アブラムの子孫＝イスラエル、アブラハムの子孫＝教会

ゆえに、イスラエル＝教会

(2) 異邦人信者はアブラハムの子孫。だからイスラエルの一部である。

(3) 「アブラハムの子孫」という言葉の使用法

\*肉体的子孫：イスラエル人もアラブ人もそうである。

ユダヤ性の定義は、「アブラハム、イサク、ヤコブの子孫」である。

\*メシアを指す（個人）

\*霊的の子孫：ユダヤ人信者も異邦人信者も指す。

(4) 従って、アブラハムの子孫＝イスラエル、ではない。

## **VII. 終末論**

### **A. 解釈学**

#### 1. ディスペンセーションナリズム

- a. 字義通りの解釈
- b. 歴史書でも、預言書でも、どの書にも同じ解釈の原則を適用する。

#### 2. 契約神学

- a. 特に預言書では、比喩的解釈が多い。
- b. 無千年期の立場の方が前千年期の立場よりも、比喩的解釈の頻度が高い。

### **B. 旧約聖書の預言**

#### 1. ディスペンセーションナリズム

- a. 預言は字義通りに解釈。
- b. 成就していない預言は、将来成就する。

#### 2. 契約神学

- a. 旧約聖書の預言は教会において成就した。
- b. 無千年期説の立場は、すべて教会において成就したと言う。
- c. 前千年期は、多くのものが教会において成就したと言う。
- d. そう主張するためには、比喩的解釈が必要となる。

例：獅子と羊がともに伏すの解釈

### **C. イスラエルと教会**

#### 1. ディスペンセーションナリズム

- a. イスラエルと教会の区別は今もあり、また将来も続く。
- b. 大患難時代も、千年王国時代も、区別が続く。

#### 2. 契約神学

- a. 旧約ではイスラエルと教会の間に若干の区別をつける。
- b. 新約ではその区別が全くなくなる。



## D. 大患難前の携挙

### 1. ディスペンセーションナリズム

- a. 一貫して患難期前携挙の立場：字義通りの釈義をした結果。
- b. ディスペンセーションナリストには意見の相違がない。
- c. 大患難時代を描写する聖書箇所には、教会という言葉が一度も出てこない。黙示録でも同じである。大患難時代の前後には教会という言葉が出てくる。

### 2. 契約神学

- a. 立場に一致はない：比喩的釈義の結果。
- b. 大半が患難期後携挙、次が中携挙、少数が前携挙、である。

## E. メシア的王国

### 1. ディスペンセーションナリズム

- a. すべてのディスペンセーションナリストは千年期前再臨説の立場。
- b. 旧約も新約も、すべて字義通りに解釈する。

### 2. 契約神学

- a. ディスペンセーションナリスト以外の神学では、無千年王国が主流。
- b. 千年期後と千年期前は少数派。
  - (1) 千年期後では、教会が千年王国をもたらすとされる。
  - (2) Ladd は千年期前の立場であるが、千年王国を信じる理由は黙示録 20 章だけであるとする。旧約聖書の預言は字義通りに解釈すべきではないと言う。

## フルクテンバウム・セミナーCD

～ディスペンセーションナリズムの立場から学ぶ～  
2008年『神の人類救済プログラム』テキスト付 8枚組 6,400円

〈内容〉1. ディスペンセーションとは何か 2. ディスペンセーションの種類  
3. 契約神学（置換神学の主流）4. 解釈学 5. 救済論 6. 教会論 7. 終末論

2007年『三位一体』テキスト付 4枚組 3,200円

〈内容〉イントロダクション 1. 神の位格の複数性 2. 神の位格の単一性 3. 三位一体の神 4. 結論

2007年『旧約聖書におけるメシア預言』テキスト付 4枚組 3,200円

〈内容〉イントロダクション、1. 律法、2. 預言書

2006年『イスラエル学』テキスト付 8枚組 4,900円

〈内容〉1. 過去のイスラエル、2. 現在のイスラエル、3. 将来のイスラエル、4. その他の関連事項

2005年『ユダヤ的視点から見たメシアの生涯』テキスト付 12枚組 8,000円

〈内容〉1. その誕生と成長過程 2. イエスの教えとパリサイ人との葛藤  
3. メシアの裁判 4. メシアの死 5. 復活と昇天

2003年『ヨハネの黙示録』テキスト付 6枚組 4,700円

〈内容〉1. ヨハネが見たこと 2. 今ある事 3. この後に起こること 結論

2002年『聖書の八つの契約』テキスト付 9枚組 7,000円

〈内容〉はじめに 1. エデン契約 2. アダム契約 3. ノア契約 4. アブラハム契約  
5. モーセ契約 6. パレスチナ契約 7. ダビデ契約 8. 新しい契約 結論

2001年『イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト』テキスト付 10枚組 6,000円

〈内容〉1. 過越の祭り 2. 種を入れないパンの祭り 3. 初穂の祭り 4. 七週の祭り（ペンテコステ）  
5. 春の祭りと秋の祭りの間の4か月 6. ラッパの祭り 7. 贖罪の日 8. 仮庵の祭り